

インフルエンザと診断されたらしっかり休みましょう。

2012.02.07

インフルエンザの猛威は北海道全体を包んでいるようですが、ここ道南の地だけはまだ別世界のようで、インフルエンザの流行はまだ始まったばかりのようです。しかし、毎年このことながらあつという間に始まりあつという間に終わるインフルエンザの警戒はしすぎて悪いことはありませんので、予防に努めて下さい。

インフルエンザに対する治療薬はここ数年で素晴らしくすすみ、飲む薬や吸入をするお薬、点滴で治療するものなどが出てきています。

インフルエンザに対するワクチンの考え方も、重症化を予防するという観点からはとても有用ということが浸透されて、助成がなくなった今年も実に多くの方がインフルエンザワクチンを受けていただいています。

しかし、薬の進歩はある意味困った現象を引き起こしました。それは診断する手段もなく治療する薬もなかった時代の解熱後2日経てば登校してもよいという学校保健法の規定です。ワクチンもし、治療薬も使ったお子さんはインフルエンザ迅速診断キットを使ってインフルエンザウイルスを証明したにもかかわらずほんの2ないし3日で熱が下がってしまうことは多々経験するところです。この人達がどのようにウイルスをばら撒き続けるのが登校を許可する立場の人間にはとても悩ましいことになって来ました。

インフルエンザと診断した人で、何も治療薬を使わなくて自力で治っていく人であれば、解熱後2日で登校というは悪くない判断だとは思いますが、治療薬を使って早くに熱が下がってしまった人にそれを当てはめるのはちょっと考えなければなりません。ある薬を使ってインフルエンザの治療をした人では熱が下がっても発熱してから5日間はインフルエンザウイルスをばら撒き続けるというデータがあります。これに則って考えれば、最低でも発熱が始まって5日間は仮に熱が下がったとしても休んでいなければ他の人に移してしまう可能性があるということになります。ついこの間、インフルエンザで小学生がひとり亡くなるという悲しいニュースがありました。こんな悲劇を二度と繰り返さないためにも、他の人にはうつさないという優しい配慮が必要ですね。